

会 議 録

- 名 称 平成25年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第3回）
- 開催日時 平成25年7月30日（火）
14時30分～16時30分
- 開催場所 北九州市役所 5階 特別会議室A
- 次 第 1 北九州市立大学の財務諸表及び剰余金の繰越について
2 平成24年度業務の実績に関する質疑応答
3 平成24年度実績に係る評価案について

[開会]

1 北九州市立大学の財務諸表及び剰余金の繰越について（資料1）

○財務諸表及び剰余金の繰越について、資料1のとおり意見書を決定

2 平成24年度業務の実績に関する質疑応答（資料2）

○大学事務局より、実績報告に関する質問事項について回答

[質疑応答 内容]

（委員）

資料2の中期計画No.8、北九州市環境首都検定受検者219名のうち合格者が59名で、合格率は約30%となっています。受検者が多いということで表彰を受けていますが、合格者に対する評価といたしますか、合格率に対する評価をどのように見られているのですか。

（大学事務局）

全体の合格率は、50%程度で、そういった方々はこの首都検定のために勉強して受けられるので、50%という数字ですが、学生の場合は、科目の中の一貫として受けさせているので、恐らく30%程度にとどまったのではないかと考えています。

初年度ですので、今後、より充実して取り組んでいきたいと考えています。

（委員長）

中期計画No.48「海外派遣留学」で、従来から、タコマ、その他の海外派遣留学を充実させてきている点では評価できるのですが、問題は、派遣して戻ってきた学生に対し、どのようなフォローをし、どのような評価をしているのですか。恐らく、単位互換をされているので、それをもとに、帰ってきてからの教育の充実をどのようにしているのかをお尋ね

したい。

せっかく海外へ派遣しますので、派遣して帰ってきた学生をきちんとフォローし、国際的人材として社会に送り出すためには、帰ってきた学生の教育プログラムを充実する必要があるのではないかと思います。

また、もう1つ関連して、海外からの留学生を受け入れたあと、その受け入れた留学生に対して、どのように追跡してフォローしているのでしょうか。と言いますのは、来ていただいた学生は、帰ると、東南アジアなどであれば、オピニオンリーダーとして活躍していただくというようなことがありますので、そのようなことも分かれば、なお評価が高まるのではないかと思います。

(大学事務局)

全くご指摘のとおりで、私どもも非常に気にしていたところです。そこで作ったのが、副専攻の Global Education Program です。タコマの学生は、2年生で行きますので、戻ってきた後、グローバル関係のプログラムが受講できるようになっています。

Global Education Program そのものが、留学を義務付けています。どうしても留学ができない方は短期でもいいので、必ず海外経験を踏むこととしています。タコマなどに行った学生に対しては、そこで留学はクリアしているので、あとは、科目やディベートなどといったものを英語で受けていくような形を全学的には用意をしたつもりです。

ただ、留学で来ていただいた学生へのフォローという面では、北方キャンパスについては、若干不十分な点があるとは思っています。

(評価案審議のため、大学関係者退室)

3 平成24年度実績に係る評価案について(資料3)

○事務局より、「I 教育」分野の項目別評価について説明

〔委員からの意見等〕

(委員)

中期計画No.6「地域人材の養成」とNo.7「環境人材の養成」のところで、実施状況等の記述を見て、これは新しいことに取り組みられているので当然なのですが、明らかにNo.6は真剣に評価されていて、真剣にやられている。それに対して、No.7はあまりにも手を抜いているのではないかとということで、このままでは、この「環境人材の養成」は危ないのではないかと感じます。

(委員)

No.27「定員充足率の改善」について、定員充足率の推移というデータがあり、ずっと見ていくと、非常に下がっている感じがしますので、もう少し努力して、少なくとも前年並みか、それ以上に持っていく必要があるのではないかと思います。

(委員)

今、大学間の競争が、私立も含めて極めて厳しい状況にある中で、この定員充足率で「よし」としてあること自体が、大学経営として、将来的に極めてまずいことにつながるのではないかとということで、警鐘を鳴らしたほうがいいのではないかと感じています。

(委員)

例えば、法学研究科といったようなところの充足率については、気になりましたが、マネジメント研究科については、一時期非常に、少なくなっていたところを、かなり努力されて、今年度かなり上昇したということですので、少し気になるところもありながらも、今年度、その部分で努力されたことを感じています。

(委員長)

定員充足率については、長年問題で、かなり評価が低かったのですが、No.25「入試広報の充実」とNo.27「定員充足率の改善」は、関連していると思います。

まず、No.25「入試広報の充実」についてですが、入試広報といった場合、大学院全体です。入試広報の充実という点に問題があるので、充足率が低いのではないかと思います。マネジメント研究科だけは突出しており、そこだけを見ると、いかにもいいようなのですが、他の大学院が良くないので、定員充足率、それから、広報についても、やはりそういう点での努力が足りないのではないかと思います。

◆中期計画No.27 の評価委員会の評価は「Ⅱ」の評価とされた。

(委員)

中期計画No.19「ソーシャルビジネス系分野の重点化等（マネジメント研究科）」については、先ほどのNo.27 のことに関連して、No.27 では明らかにマネジメント研究科の定員充足率は改善していますし、委員の自覚体験もあり、非常にいい教育をされているということであれば、非常にしっかりやられていることは、認めたいと思います。

ただ、大学として、このような技術的な実務家教育について、どうやるべきかという問題は、まだ日本の中で定着していないので、そこに対して、できれば、北九州市立大学の一つのスタイルを確立していただきたいと思います。

(委員)

中期計画No.14「戦略的な入試広報による優秀な学生の確保」について、目標に挙げている一般選抜の実質倍率 2.8 倍以上を達成できていないのに、「Ⅳ」の評価は何かおかしい感じがします。

○事務局より、「Ⅰ教育」分野の分野別評価について説明

〔委員からの意見等〕

(委員)

1点目は、下の地域創生学群の話と地域人材の育成の話は、ある意味でオーバーラップしていると思われますので、これは、一つの文章にうまくまとめて書いたほうがいいと思います。

2点目は、最初の文章で、「優秀で熱意ある教員を受け入れるなど」とありますが、今いる教員の気持ちを変えていくことをやらないと、人が入れ替わるのを待っていたら、20年かかりますので、これでは悠長すぎると思います。

(委員長)

「優秀で熱意ある教員を受け入れるなど」の文章については、教員が国立大学や私立大

学に行ってしまう、かなり流出しているのです。そういう意味も含めて、今いる人材をどうするかということと同時に、優秀な人が流出しないような工夫が、本当は必要で一番言いたかったことです。

また、語句の問題ですが、中期計画No.4「世界を舞台に活躍する語学力に優れた人材の養成 [外国語学部の取組]」の(特筆すべき事項)のところで、「数値目標を達成できなかったことを鑑み」とありますが、「ことに鑑み」ではないでしょうか。

○事務局より、「Ⅱ研究」「Ⅲ社会貢献」「Ⅳ管理運営」分野の項目別評価について説明
〔委員からの意見等〕

(委員)

中期計画No.38「(仮称)環境科学技術研究所の設置」についてですが、北九州市自身が災害がれきの受入れなど、全国的に見ても非常に大きな貢献をされていますし、環境都市という位置付けで見ても、北九州市立大学の存在をうまく使いながら自治体として取り組まれていることは、高く評価していいのではないかと考えています。

残念ながら、教育のほうでは、少しひびきのが低調なイメージがあり、このままひびきのが低調な感じで評価されると、ますますひびきのから優秀な方が逃げて行ってしまうのではないかと思いますので、ここの部分は、やはりひびきのの売りですから、高く評価して、期待をかけたほうが戦略的にもいいのではないかと思います。

(委員長)

中期計画No.38 については、かなり進展してきています。一生懸命やってこられ、水分が少なくすむ消火剤などもありますので、そういう流れで、もっともっと安定してきて良かったのが、今少し低調になっています。それで、実績報告書にはこれだけ書いてあるのに、大学側は、多少遠慮したのではないかなと思いますので、今後の期待を込めて「Ⅳ」にしてはどうでしょうか。

◆中期計画No.38 の評価委員会の評価は「Ⅳ」の評価とされた。

○事務局より、「Ⅱ研究」「Ⅲ社会貢献」「Ⅳ管理運営」分野の分野別評価について説明
〔委員からの意見等〕

(委員)

「Ⅱ研究」分野については、環境省のプロジェクトを採ったというようなことも、少し加えてもいいのではないかと思いますし、ポジティブなところをもう少し増やしたほうがいいのではないかと思います。

また、一番最後の文章は、前半と後半で「研究水準の向上」と同じことを繰り返していますので、もう少し端的にし、「教員の研究しやすい環境を整備して、優れた専門的・先端的な研究者を招致し、研究水準の向上を図る」という形で、少し書き方を工夫していただきたい。

(委員)

「Ⅲ社会貢献」分野の2番目「まちなかESDセンターを核とした」とありますが、後のほうに「地域に根ざす」「地域からの期待」「今後の成果が期待」と、少し言葉が重複

しているので、集約したほうがいいのではないかと思います。例えば、「地域に根ざす活動をしており、今後の成果が期待できる」くらいでいいのではないのでしょうか。

また、一番最後の「大学の国際化」のところで、留学生の受入れについて書いていますが、留学生の派遣と受入れの両方をやっているということはきちんと書いておいたほうがいいと思います。

そして、次の課題は理系については、あまり活発に行っていないということです。

続いて、「IV管理運営」の2番目の内容についてですが、交流に関しては、それは管理運営でできるようになったのかもしれませんが、実際、効果としては教育のことにありますので、「I教育」分野に書き込んだほうがいいと思います。

それから、5番目の〇の「キャリアパス」について、「キャリアパス」という言葉を「人材育成計画」という言い方にするのはいいのですが、そうしてしまうと、閉じた世界で人をずっと雇用するという発想になり、どうしても閉じこもってしまいそうなので、「他機関との人材交流制度なども含む人材育成計画」というような、外にも人を出すんだという形を、もう少し表に出したほうがいいのではないかと思います。以前の大学側との議論の中でも、そういうことまで考えながらやっているという話でしたので、「他機関との人材交流の流れが」という言い方でもいいと思いますけれど、そういう言葉を入れて、人材育成計画という言葉に変えていただいていた方がいいのではないかと思います。

(委員長)

「IV管理運営」のところで、5番目が「検討されたい」となっていますので、4番目と5番目の文章を最後に持ってきたほうがいいと思います。全部ばらばらに入っているので、「評価する」、「期待する」という表現については、前に持っていく、「注力していただきたい」、「検討されたい」という表現は後ろに持っていったほうがいいのではないかと思います。

〇事務局より、全体評価について説明

〔委員からの意見等〕

(委員)

一番最初の〇の後半で、「大学の改革意欲も高く」とありますが、ここの主文というのは、大学の執行部、学長ということになってしまうのでしょうか。「個々の教員の改革意欲も高く」であれば、少し合わない気がします。

(委員長)

これは執行部を含めて大学全体の意味合いだろうと思います。個々の教員のところでは、もう少し頑張ってもらいたいということが一番最後の〇に、「教員の教育・研究に対する意識改革や財務運営の認識」ということで書いていますし、一番最初の〇では、「大学」としてきますので、執行部の改革意欲も高くとする方がいいと思います。

(委員)

研究分野のところで、北九州市立大学というのは、やはり市民のための研究結果が必要だろうと思っていますので、もう少し研究結果が形として、何か市民の生活の向上など、そういうところに役に立つということを、ぜひお願いしたい。まだ、発表会やシンポジウムという域にとどまっているような気がします。もう少し積極的に外に出て、民間に提案

していくという姿勢が必要ではないかという気がします。

また、受け取る人によれば、理工系だけの話と思う人もいれば、いわゆる市の政策といった話で、社会科系の話のことをイメージする人もいるので、これは両方でないといけません。そこは、もう少しクリアに書いたほうがいいのではないかと思います。

(委員)

教育分野にいろいろ事業が挙げられていますが、「いろいろ採択を受けた」などとし、具体的な名前まで書かなくてもいいと思います。

〔審議終了〕

○最終的な評価案については、委員長一任とし、審議終了

[事務局より次回の委員会のスケジュール等について説明し、閉会]